



アオダイ



ハマダイ



ヒメダイ

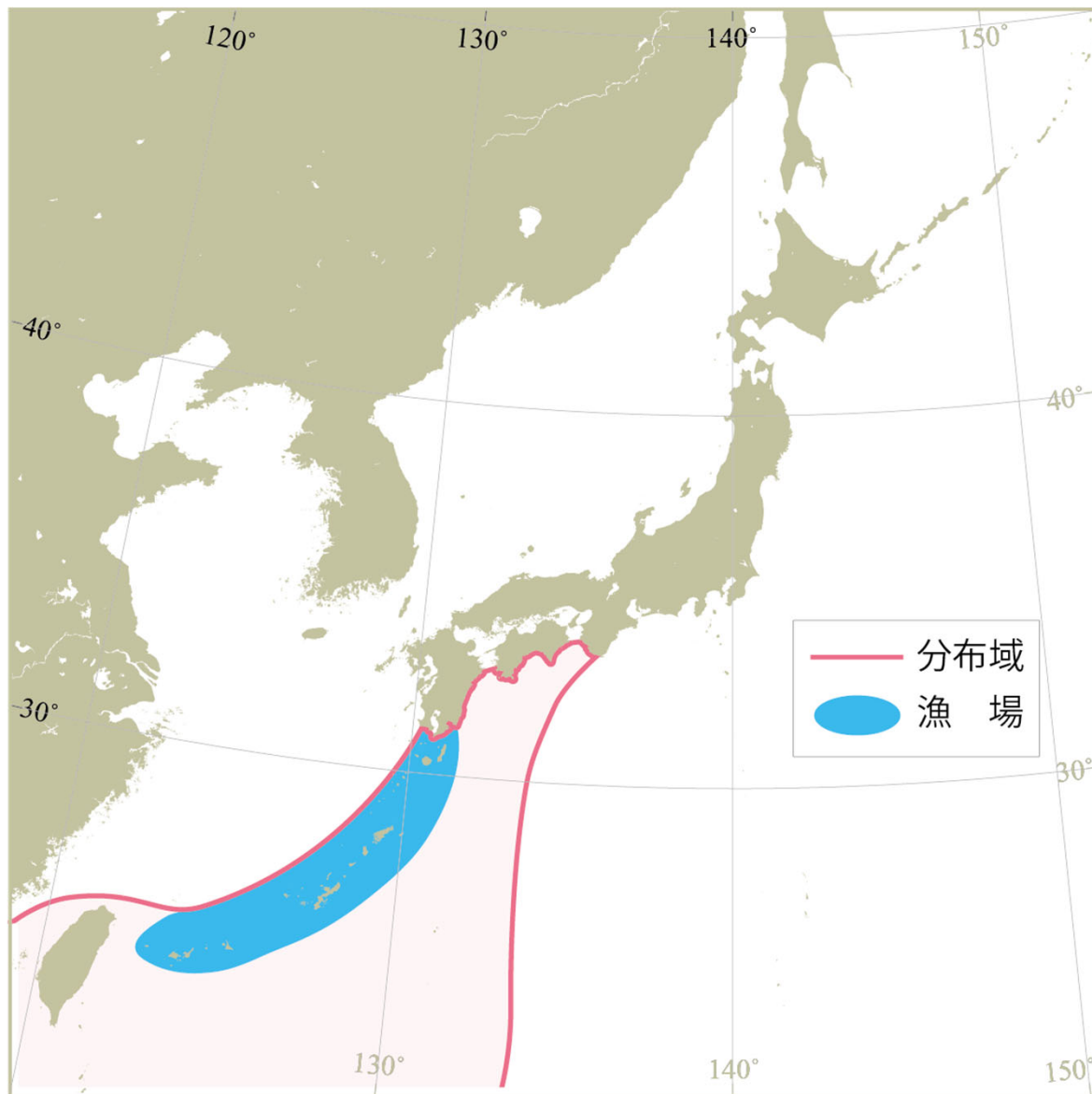


オオヒメ

マチ類

奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島
令和7年度資源評価結果

生物学的特性

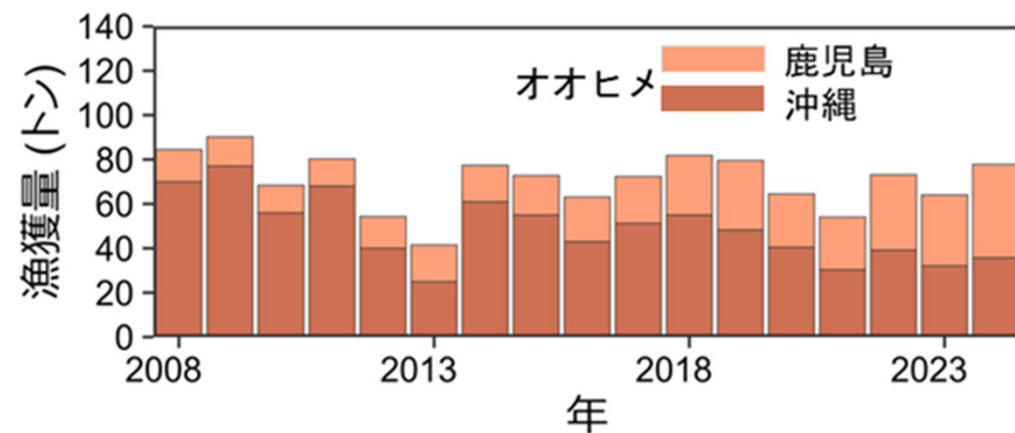
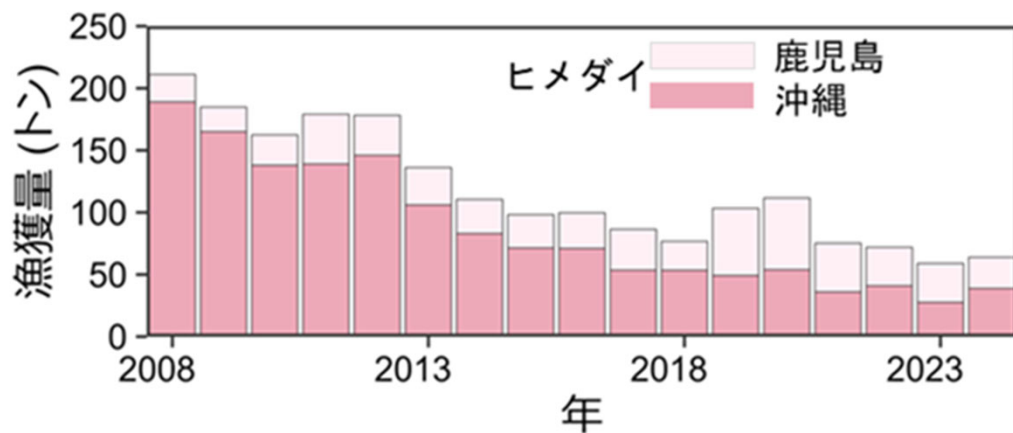
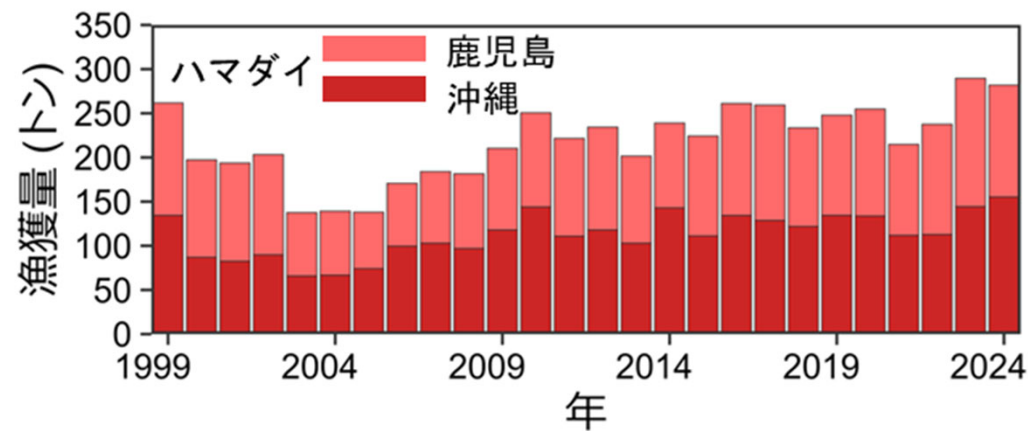
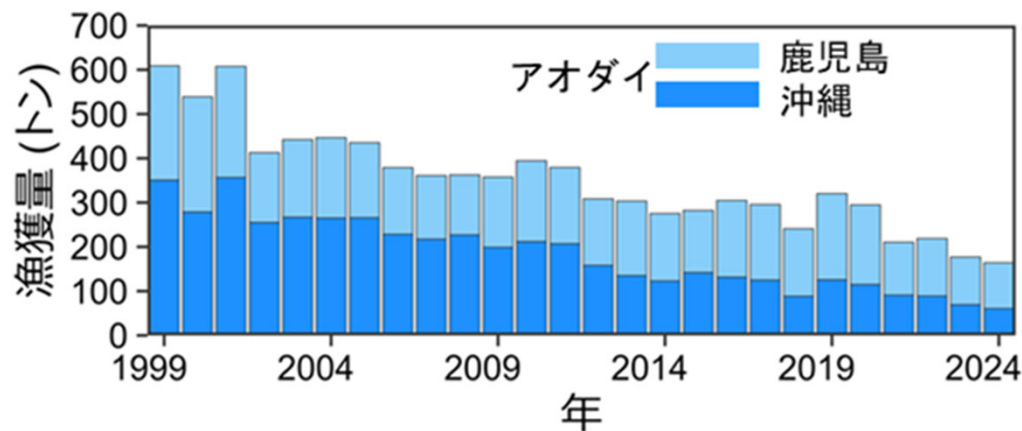


- 漁獲はほぼ周年

生物学的特性

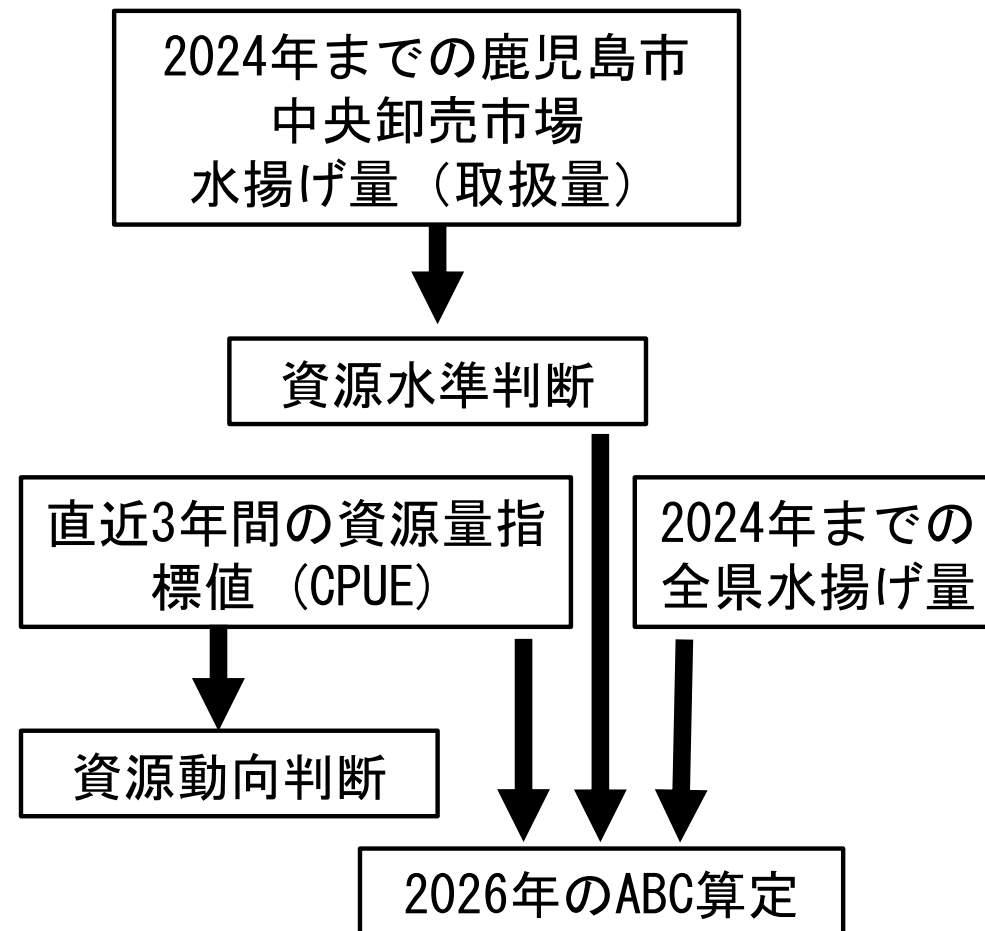
- 寿命：アオダイは59歳、ハマダイは55歳、ヒメダイは38歳、オオヒメは35歳
- 成熟開始年齢：アオダイは2歳（一部）、7歳（50%）、ハマダイは9歳（一部）、12歳（50%）、ヒメダイは2歳（50%）、オオヒメは2歳（一部）、3歳（50%）
- 産卵期・産卵場：アオダイは4～9月、ハマダイは5～11月、ヒメダイ・オオヒメは3～10月
- 食性：アオダイは大型動物プランクトン、ハマダイは小型イカ類、魚類、ヒメダイとオオヒメは魚類、ヒカリボヤ類、浮遊性甲殻類、イカ類など
- 捕食者：マハタ、カンパチ、サメ類など

漁獲の動向



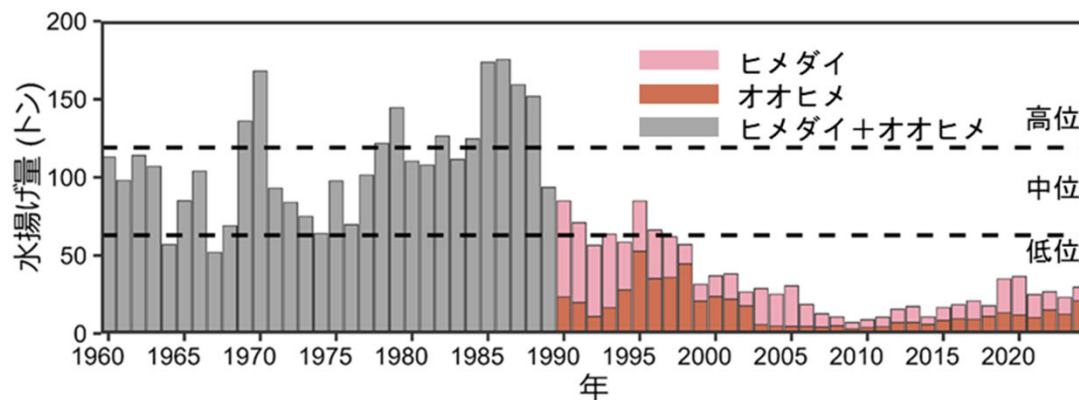
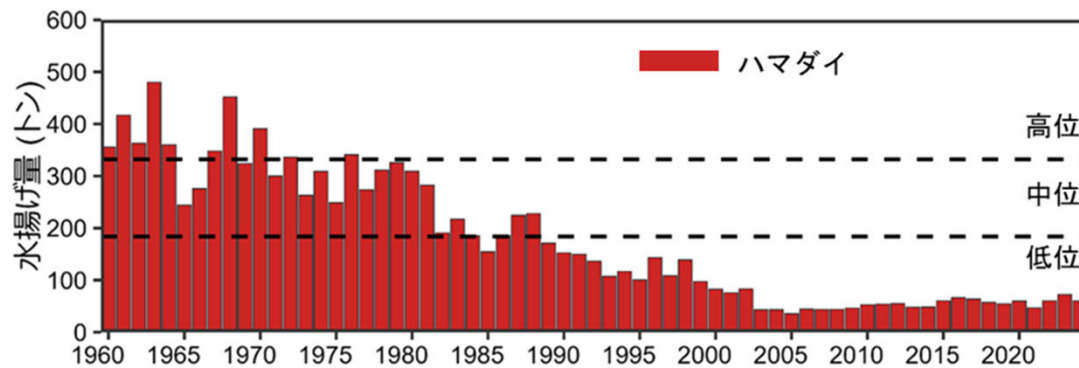
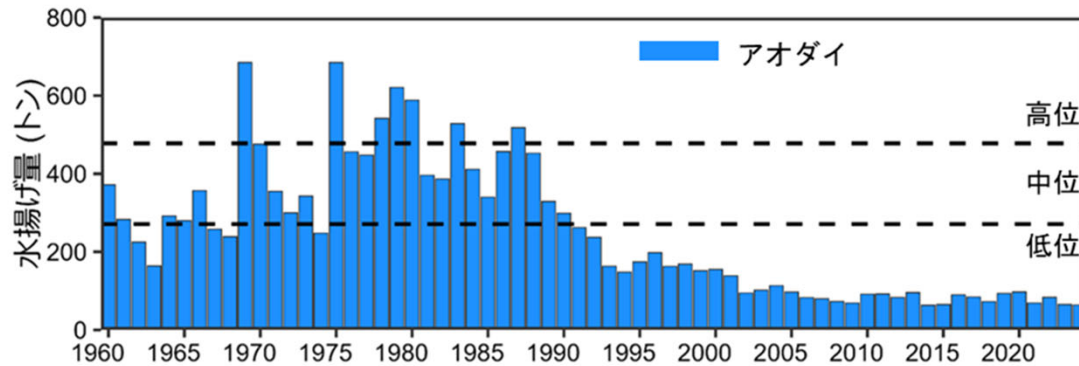
- 水深100m以深で操業する深海一本釣り漁業や底立はえ縄漁業により漁獲される
- 2024年漁獲量 アオダイ：164トン ハマダイ：282トン
 ヒメダイ：64トン オオヒメ：78トン

資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

資源の動向①



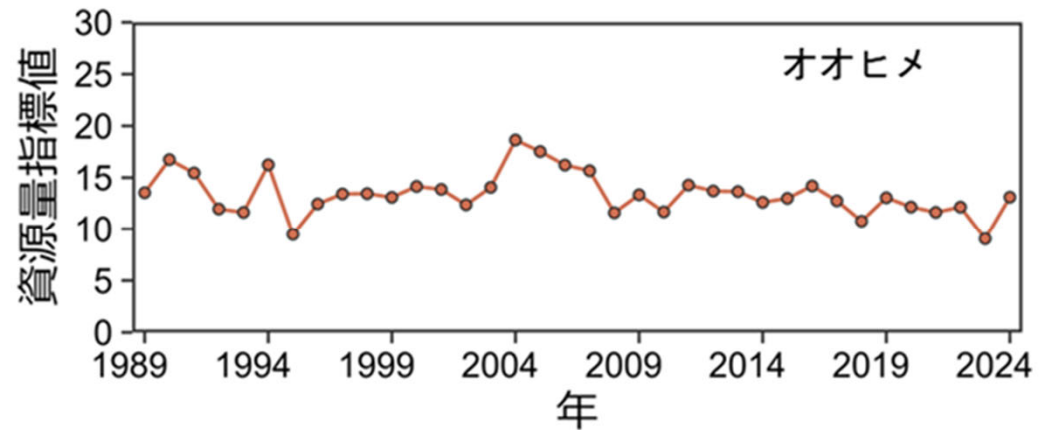
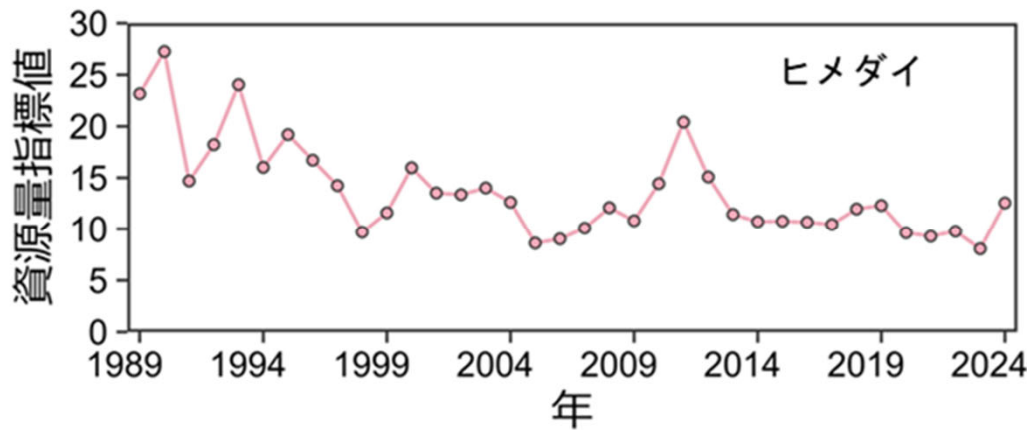
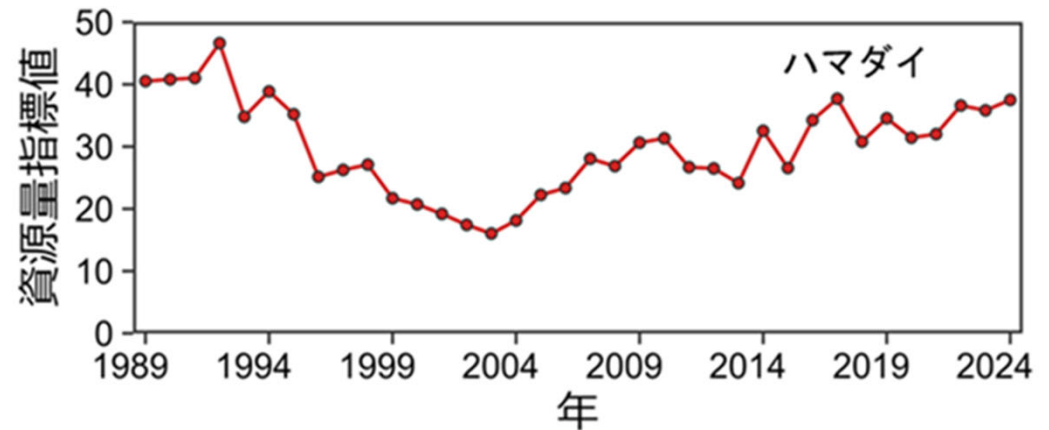
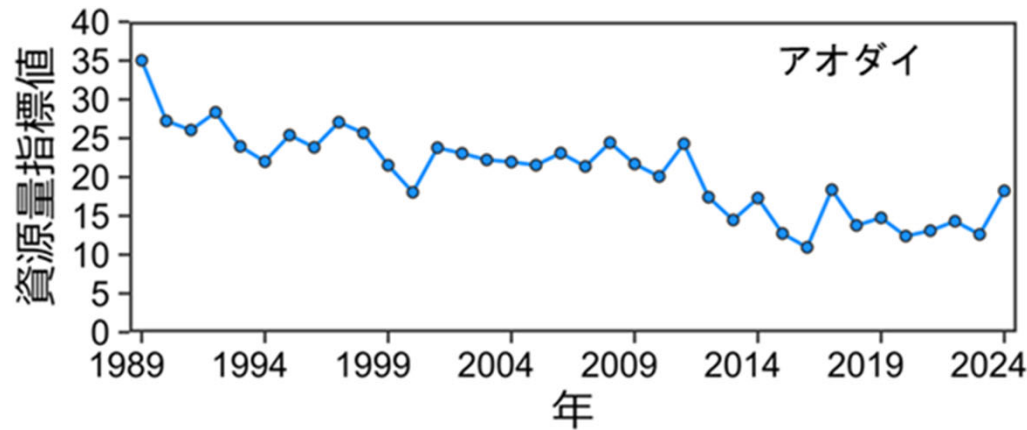
※水準区分

アオダイ、ハマダイおよび
ヒメダイ・オオヒメの混合種群

(それぞれの水揚げ量の最高値と
最低値の間を3等分した値を高位・
中位・低位の区切とした)

- 資源水準：65年間の水揚げ統計がある鹿児島市中央卸売市場の水揚げ量から、2種・1種群とも「低位」

資源の動向②



- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の資源量指標値（八重山漁協一本釣り漁船1隻1航海あたりの漁獲量（CPUE））の推移から、アオダイ、ヒメダイ、オオヒメは「横ばい」、ハマダイは「増加」

資源評価のまとめ

- 水準は、いずれの種・种群も低位
- 動向は、アオダイ、ヒメダイ、オオヒメで横ばい、ハマダイで増加
- 漁獲量と資源量指標値の推移をもとに、2026年ABCを算出した

※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

2026年ABC

	管理基準	Target／ Limit	2026年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値 からの増減%)
アオダイ	0.7・Cave 3-yr・1.13	Target	118	—	—
		Limit	148	—	—
ハマダイ	0.7・Cave 3-yr・1.01	Target	153	—	—
		Limit	191	—	—
ヒメダイ	0.7・Cave 3-yr・1.14	Target	41	—	—
		Limit	52	—	—
オオヒメ	0.7・Cave 3-yr・1.04	Target	42	—	—
		Limit	52	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1)により、
 $ABC\text{limit} = \delta_1 \cdot \text{Cave 3-yr} \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (Caveを用い、資源水準が低位である場合の推奨値)
- Cave 3-yr : 直近3年間 (2022～2024年) の平均漁獲量
- γ_1 : 1.13、1.01、1.14、1.04 (直近3年間 (2022～2024年) の資源量指標値の傾きと平均値から算出)